

# プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち10～3月号で参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

## 私の夢に向かって

菊池南中学校3年 田中麗華さん



私には将来の夢がありません。それは、みんなが楽しめるようなイベントを創ることです。なぜそのような夢を持つようになったかというと、生徒会の会長として体育大会などの学校行事をみんなで創り上げたり、委員会活動を持続可能な開発目標（SDGs）の視点で取り組んだりしていく中で、物事を創り上げる楽しさや達成感を味わうことができたりからです。ただ、うまく指示をしたり、まとめることができず、自分の力のなさも感じていました。自分の夢を実現するために、また、生徒会の会長として学校をリードしていく力をつけるために、今の日本、世界を知りたいと思い、プラチナ未来人財育成塾に参加しました。

プラチナ未来人財育成塾では、さまざまな分野の13人の講師の方から講義を受け、グループ内で話し合いをしました。講義やグループワークの中で、一番に残っているのは、涌井史郎先生の講義です。私はよく学校で「自己中心的」という言葉を耳にします。「あの人はわがままだ。」「彼は自分のことしか考えない。」といった意味で使われます。私は自分のことを「自己中心的」とはあまり思っていないませんでした。しかし、涌

井先生の講義を聞いて、自分がいかに「自己中心的」であるかを思い知らされました。講義の中で、「地球環境の被害は貧しいところへいつている。」「人間は他の動物なくしては生きていけない」という言葉が心に残っています。私たちが「便利さ」を求めた欲望が何もしていない貧しい人たちに被害を及ぼしているというのです。

例えば、私たちは技術発展のおかげで快適な生活をしていきますが、その影響で地球温暖化が進んでいきます。そのため、世界では海面が上昇して、仕事ができなくなったり、生活さえも危険になったりしているのです。これは人間に限ったことではありません。人間は生態系のピラミッドの頂点に位置している図をよく見かけますが、逆に考えてみると人間はほかの生物なしでは生きていけないということなのです。私はこのことを知ったとき、人間は強いようでは実は弱い生き物であることを実感しました。しかし、現状では多くの生物が絶滅の危機に追い込まれています。私たちはもっと世界に目を向けるべきだと強く感じました。

最終日には、グループごとの発表がありました。どのようにしたら「プラチナ社会」になるのかを考えました。「プラチナ社会」とは、「エコロジ」で「資源の心配がない」「心も物も豊かで」「雇用がある」を必要条件とする社会のことです。この一つ一つを実現するためにはどのようなしたらよいか、広めるためにはどうしたらよいかを考えましたが、広めること自体が難しく感じました。

そこで、今、学校で取り組んでいるESD教育（持続可能な開発のための教育）について説明しました。すると、グループのみんなが賛成してくれました。私たちのグループからは、中学校でESD教育に取り組むことでSDGsを知り、17のSDGsに向かって行動することができるとはなかったか。そして、その行動が「プラチナ社会」を実現することができるのではないかとこの発表をしました。

私は、初めに「イベントを創ることが夢である。」と言いましたが、このプラチナ未来人財育成塾に参加して少し変わりました。今は、イベントを通して人や地域、世界とつながり、笑顔あふれるイベントを創ることが私の夢です。

※作文は一部抜粋

# プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち10～3月号で参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

## プラチナ未来人財育成塾で学んだこと

菊池南中学校3年 川口真由さん



私は、8月4日から5日間、プラチナ未来人財育成塾に参加しました。講義では、知らなかったことを知ることができ、今の世界の情報や技術の話がわかりやすく説明されていたので、頭の中にすっと入ってきました。また、グループワークは持続可能な開発目標（SDGs）を元に行われ、これからの生徒会での取り組みに生かせようだなと思いました。たくさんさんの講義や活動の中で、特に印象に残ったものが2つありました。

1つ目は初日に行われた小宮山先生の講義でした。「2050年の世界から自分を考えてみよう。」というものです。ここで私は最初の大きな驚きがありました。それは「飽和」という言葉です。「飽和水蒸気量」とかで使われる「最大限まで満たされた状態であること」を意味する言葉です。この言葉だけ言っても何のことかわからないと思います。具体的な例を挙げて説明します。

現在、世界の人口は増え続けています。それにともない、たくさんさんの機械が生まれ、私たちの日常で使用されています。自動車もその内の一つです。では、人口が増え続けているのなら、自動車も増え続けるのでしょうか。答えは違います。数値的に見ても、一人当たりの保有台数が0.4〜0.5、つまり、2人に1人が車を持っている状態になると、今まで増

加していた保有台数のグラフは停滞します。なぜならば、残りの人たちは「車を持つことができない」のではなく、「車を持つ必要がない」人たちだからです。

日本は先進国の1つです。技術も発達していて、特に、都市部は公共交通網が発達しています。また、車を1度買えば約十年間は乗るので、ひんばんに買い替える必要もありません。よって、先進国の車の保有台数は「飽和」するのです。これが、「人工物の飽和」です。私は、この話を聞いて初めは自分の想像と全く違うので驚きましたが、話を聞いていくうちに納得しました。私にとって、「飽和」という言葉はとても印象的で忘れられない言葉になりました。

また、小宮山先生は「実体が変わっているのに制度は古い。」という話もされました。例えば、「生産年齢」です。「生産年齢」とは、「生産活動ができる年齢」のことで、通常15歳以上65歳未満を言います。このことに先生は、「15歳から働くのか？65歳からは働かないのか？」とおっしゃいました。私は「教科書にもものっていることだから」と思って、疑いもしませんでした。だが、言われてみれば、確かにその通りです。もちろん中学を卒業してから働く人もいますが、多くは高校や大学を卒業してからです。65歳を過ぎて働いている人は周りにたくさんいます。「常識を

疑え」という言葉がどれほど重要なのか、はつきりわかりました。

印象に残った2つ目のことは、グループワークです。講義の振り返りやSDGsについてグループで話し合い、その中で、私たちは17項目あるSDGsの中で、特に重要なものを選び、その理由を発表しました。私は17項目の中から「①貧困をなくそう」と「②飢餓をゼロに」を選びました。貧しくて亡くなっている人たちを救うことが優先だと思ったからです。グループの人も同じ考えだろうと思っていました。しかし、実際に私と同じ人は一人もいませんでした。反対に、私が全く考えていなかった「技術の進歩」を選んでいる人もいれば、「ジェンダー平等」を選んでいる人もいました。異なった意見の一つにまとめたり、意見を共有したりすることは、難しいことでしたが、とても楽しく、いい経験になりました。

私はこの経験を通して、「意見を伝えること」の大切さを学びました。興味があることにとことん取り組みましたし、知らなかったことを知ることが、もっと知らないことを知りたいと思うようになりました。これからの学校生活や生徒会活動とともに、普段の生活でも学んだことを忘れずに生かし、もっと多くのことを学び続けたいと思います。

※作文は一部抜粋